

戊辰の役 水戸藩士戦死者 就いての考察

一 水戸藩士越後口への行程

○印は、「長岡・稲川氏調査」
○印は、「与板藩史」池上太二著

◇三月二十日 会津発
「水戸藩士の越後における日程」
◇は、印
「長岡・稲川氏調査」

◇三月二十四日 津川

◇ 二十八日 笹岡

◇ 二十九日 水原

○四月上旬 与板藩警備所六ヶ所に定める。
大坂塔婆付近 (池上)

◇四月八日 新潟

○四月十八日 会津征討越後口総督軍
山県・黒田参謀江戸を出発

☆四月二十六日 与板出初めて銃声を聞く。

○四月二十六日 三國峠で会津軍七十名程と農兵二百名を
西軍に撃破される。

○四月二十七日 高田に西軍参謀到着

◇水戸藩 四月二十八日 荒浜到着

○四月二十九日 海道軍は柏崎を占領

○五月二日 西軍小千谷を占領

○五月九日 信濃川大洪水となる。

○五月十日 河合・岩村会談決裂となる。

二 灰爪(別山村)与板の戦闘
◇五月十四日 灰爪(別山村) (稲川)

☆与板藩士初めて出陣、出雲崎・寺泊方面

※別山村の激闘

◎五月十四日 北越軍芥維新史・田中惣五郎
雨・横渡会議所を騒生に運す。黒田長太郎・内藤某・
柏崎より来たり。西照寺長岡より来る。佐々慶次もまた
来たり。各壘僅かに発砲するのみ。
★長岡の歴史・合衆省三著
五月十四日 長岡・雨池村組頭・仙右衛門と寺宝村同
次郎助が、薩摩の本陣に口上書を提出
「陣地を避ける様にとの事」

◇五月十四日 水戸藩 灰爪(別山) 与板方面の戦死者名
(別山村は、与板藩領・塚の発掘・男と女の骨が出る。
おそらく女は、東軍の妻子と思われ。)
「尚、店橋庄屋の古文書が残っている。」

五月十四日 戦死
岩間醒次郎
海野数馬
海野捨之介
岡崎藤衛門
岡崎太次郎
岡崎蔵太郎
木村蔵太郎 (1900)
後藤道順
齋藤醒次郎
齋藤醒次郎
鈴木太郎兵衛
口田準之介
丸山善次
岩間醒次郎
海野捨之介
海野藤衛門
岡崎太次郎
岡崎蔵太郎
木村蔵太郎
後藤道順
齋藤醒次郎
齋藤醒次郎
鈴木太郎兵衛
口田準之介
丸山善次
十三名

○五月十九日 早暁西軍薩摩・三好軍与板の対岸より長岡に
上陸
長岡城陥落

○五月二十七日 与板藩史一
本与板村方面 水戸藩 市川三左衛門 (池上)
原村方面 水戸藩 寛助太夫

三 与板城の焼失人の激闘 (五月二十八日) (池上)

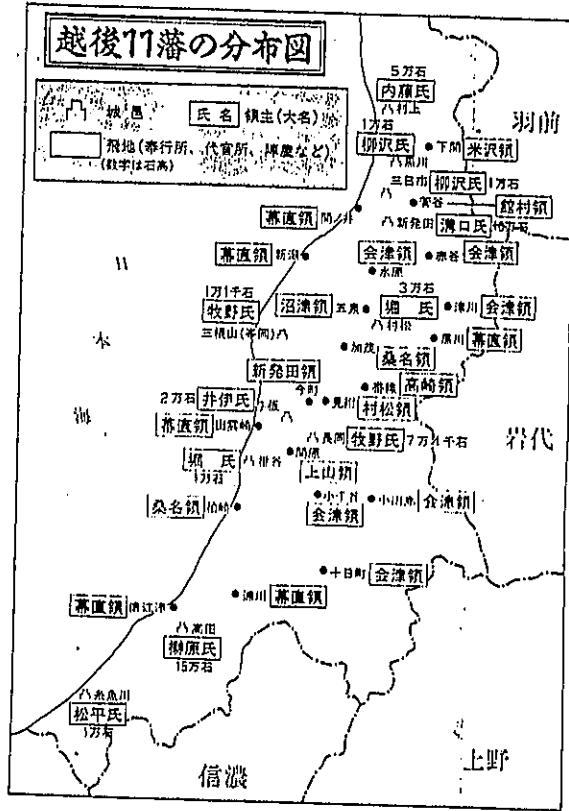
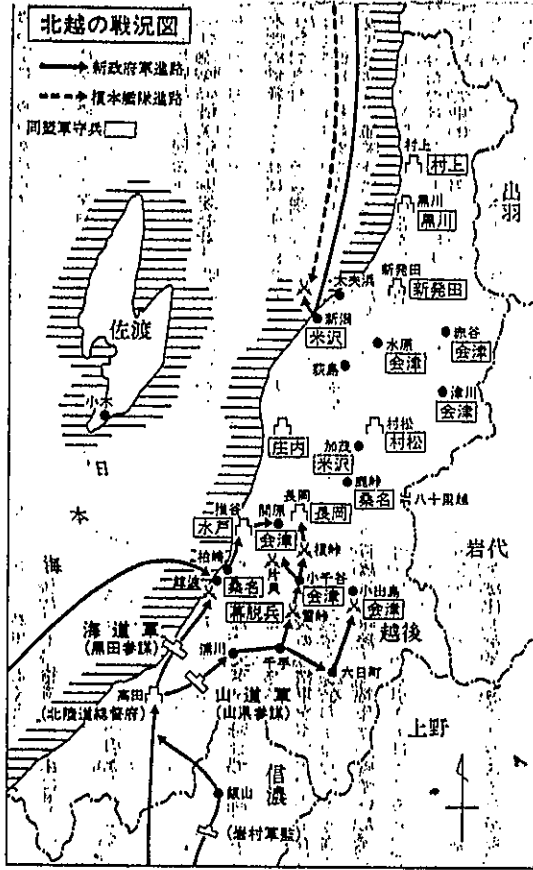
○五月二十八日 与板城焼失
○五月二十九日 島崎の攻防戦「与板藩史」
○五月三十日 西軍 各戦線の防備強化をはかる。

◇五月晦日 安食和七郎

久賀安三郎
佐川喜三郎
根本清之助
矢島信之助
小野利三郎
安食和七郎
佐川喜三郎
根本清之助
矢島信之助
六名

○六月二日 島崎攻防の後体制 「与板藩史」 (池上)
北野方面 水戸藩 市川三左衛門
年友方面 水戸藩 伊藤長之助

○六月三日 庄内戦争録より
水戸藩 伊藤辰之助



		元禄 明正		享和 應和		天保	
		正		拾		日	
		三		五		七	
十一	一、藩主井伊直安・与板を立てて江戸に向う。	三	一、慶喜討伐の大名領布せられる。	七	一、徳川幕府・政權奉還	七	一、寺泊に滞在の幕府の脱走兵の一味が拔刀で、与板に乗り込み目ぼしい町家に侵入して強奪し、藩に軍資金百万両を要求する。
十	一、藩主二月江戸城に到る。 (前掲の御・輪等幕府志を参照。御旨信末、森原信三)	六	一、鳥羽・伏見の戦が起る。	五	一、王政復古の号令下る	五	一、直安京都に着き、寂光寺に投宿をする。
九	一、直安江戸を發して京都に上る。	五	一、慶喜討伐の大名領布せられる。	四	一、徳川幕府・政權奉還	四	一、藩主天機を奉伺いし、以後滞京し当直する。
八	一、慶喜討伐の大名領布せられる。	四	一、鳥羽・伏見の戦が起る。	三	一、徳川幕府・政權奉還	三	一、寺泊に滞在の幕府の脱走兵の一味が拔刀で、与板に乗り込み目ぼしい町家に侵入して強奪し、藩に軍資金百万両を要求する。
七	一、慶喜討伐の大名領布せられる。	三	一、鳥羽・伏見の戦が起る。	二	一、徳川幕府・政權奉還	二	一、寺泊に滞在の幕府の脱走兵の一味が拔刀で、与板に乗り込み目ぼしい町家に侵入して強奪し、藩に軍資金百万両を要求する。
六	一、慶喜討伐の大名領布せられる。	二	一、鳥羽・伏見の戦が起る。	一	一、徳川幕府・政權奉還	一	一、寺泊に滞在の幕府の脱走兵の一味が拔刀で、与板に乗り込み目ぼしい町家に侵入して強奪し、藩に軍資金百万両を要求する。
五	一、慶喜討伐の大名領布せられる。	一	一、鳥羽・伏見の戦が起る。	〇	一、徳川幕府・政權奉還	〇	一、寺泊に滞在の幕府の脱走兵の一味が拔刀で、与板に乗り込み目ぼしい町家に侵入して強奪し、藩に軍資金百万両を要求する。
四	一、慶喜討伐の大名領布せられる。	〇	一、鳥羽・伏見の戦が起る。	〇	一、徳川幕府・政權奉還	〇	一、寺泊に滞在の幕府の脱走兵の一味が拔刀で、与板に乗り込み目ぼしい町家に侵入して強奪し、藩に軍資金百万両を要求する。
三	一、慶喜討伐の大名領布せられる。	〇	一、鳥羽・伏見の戦が起る。	〇	一、徳川幕府・政權奉還	〇	一、寺泊に滞在の幕府の脱走兵の一味が拔刀で、与板に乗り込み目ぼしい町家に侵入して強奪し、藩に軍資金百万両を要求する。
二	一、慶喜討伐の大名領布せられる。	〇	一、鳥羽・伏見の戦が起る。	〇	一、徳川幕府・政權奉還	〇	一、寺泊に滞在の幕府の脱走兵の一味が拔刀で、与板に乗り込み目ぼしい町家に侵入して強奪し、藩に軍資金百万両を要求する。
一	一、慶喜討伐の大名領布せられる。	〇	一、鳥羽・伏見の戦が起る。	〇	一、徳川幕府・政權奉還	〇	一、寺泊に滞在の幕府の脱走兵の一味が拔刀で、与板に乗り込み目ぼしい町家に侵入して強奪し、藩に軍資金百万両を要求する。

与板戊辰之役に就いて

無印ハ前波町史・又ハ別院日記。◆印ハ与板戊辰史要
(大沢孚著) ☆印ハ与謝野礼蔵伝。

藩は七千両で勘弁して貰い上げる。

五											
七	五	三	二	二九	二六	二五	二四	二三	上	二	
<p>一、幕府脱走兵。坂本兵馬が敗走して与板を通る。与板の町民は快哉を叫んだ。後会津藩の部隊は、彼の暴行を責めて斬殺した。</p>	<p>◆ 一、前夜より敗兵続々と与板を過ぎ三系方面に退く。城下の通行を拒否したので水路舟にて逃げ去る。</p>	<p>◆ 一、新兵器銃新潟港到着せるに会津藩士に強奪させる。責任者松下俊之助二十八日城焼失の時責任を感じ自刃したものとと思われる。</p>	<p>○ 一、河合・岩村小千谷会談、不調に終わる。</p>	<p>一、柏崎に居た東軍が退却して与板領官川に陣どる</p>	<p>一、東軍小出・小千谷の両地を捨て長岡に逃れる。与板で銃声を聞いたのは、この日が初めてである。</p>	<p>◆ 一、会津藩松平肥後討伐の号令が出る。</p>	<p>◆ 一、三國の官軍、小出を攻撃、信州の官軍は小千谷を攻撃する。</p>	<p>◆ 一、江戸藩邸にて新式舶来の銃砲を購入して新潟港へ回漕する。</p>	<p>一、江戸詰の藩士が続々帰郷五月中迄百人及ぶ。警備所を設ける。 一、大塚藩兵。一、森辺一、罈一、千原盛一、罈(千原盛) (千原盛)</p>	<p>◆ 一、脱走兵の狼藉を北陸総督に報告。藩主大に怒り執政松本源左衛門を与板に下し、久住秋策を補佐役に任命する。</p>	<p>◆ 一、頭目古谷作左衛門・今井信郎・内田庄司等新潟に集結。今井信郎寺泊より襲撃</p>

二九	二六	二七	二六	二四	二九	二七	二六	二九
<p>一、この日黎明敵軍大挙して来襲、塩入・富岡方</p>	<p>一、東軍が金ヶ崎に迫り応援を頼んだ官軍は来ない。真意を疑っているのかと察せられたが、砲撃の火蓋を切ると砲声を聞いて脇の町駐屯の官軍が来援したが時すでに遅く我が軍当ノ浦に退く</p> <p>◆ 一、城の中、市街とも火勢おとろいず、藩士中川津兵衛・市民久住重次郎・上村万吉等数十人消防に勤める。</p>	<p>一、庄内・村上方面の東軍の来襲の報有り藩の兵力は僅かに五小隊と砲四門に過ぎない。従軍に申出が町民が数百人で四軍に分ちち。警備にあたり官軍の救援を要請する。</p>	<p>一、楨原(大割木十榎・味噌二十貫)中条(味噌二十貫・二榎)萬都(味噌漬・三榎二百二十五本)沢庵漬(一榎)山沢(大割木五榎・味噌十貫)新木与一左衛門(酒一石)それぞれ献上した。</p>	<p>◆ 一、一番士民皆兵となし老若隊を結成して藩の結束を図る。</p>	<p>一、官軍隊長三好軍太郎は楨下進み、機を見て敵前上陸を策略。然し船は悉く長岡軍の手中にあった。与板に数十艘のみ夜与板藩小川昌三郎銃撃を受けながら楨下の官軍に供給した。</p> <p>◎ 一、早暁・三好軍は、信濃川を渡り長岡城が落ちる。長岡軍は自ら城に火を放って見附・三条方面へ退く。</p>	<p>一、小千谷の官軍は妙見及榎峠の東軍を攻める。分営を関原に進め、斥候が与板に進出</p>	<p>◆ 一、与板藩が最初の出兵は、小野金三郎隊で出雲崎・寺泊に出陣する。</p>	<p>一、信濃川大洪水。原・中村街道・町裏の堤防が欠壊して全町殆ど浸水した。軍事上では敵の行動が自由にならず与板には幸いだった様である。</p>

三	二	一	六	七	七	六	五	四	三	二	一
◆一、東軍・長岡軍は遂に長岡城を奪還を敢行する。	◆一、彦根発、北陸道を経由。	◆一、藩主京都発大津より彦根に着く。	◆一、備后二付、御暇乞の為参朝。岩倉議定より御感状を下賜される。	一、朝本与板村・円満寺焼失、是は会津藩の忍びの者三人入り放火との事。 五月八日より本与板村日々二、三軒ツツ会津藩より放火、今日この頃は本村は焼け残り三、四軒しか見え申さず候。	☆一、礼蔵与板御坊に滞在各地の情報を北陸総督へ報告している。 「翌二年迄滞在して八月二十七日帰郷する」	一、「戦争中印鑑これなきものは往来堅く無用の事 辰六月・会議所」と言う高札が、氣比宮。阿弥陀瀬・中田・中村・与板黒川端・新屋敷の各所に立て「鉄砲形の御印」が庄屋一同に渡された。	◆一、藩主天皇御召に依参朝、天顔を拝す色々の品を拝領する。	一、草鞋・沢庵漬・明俵・篝火用焚木の徴発が始まり、六月二日から三十八人の人足出る。	一、官軍の諸藩が集合し、東は川袋より北は本与板・原・西は与板裏山より阿弥陀瀬・笠脱山・乙茂・柿ノ木に至る五里の防備を完成する。 六十日も戦争が続く。	面も苦戦に陥りついに兜巾堂山に退く。 七ツ時城中に火を放ち、町家も燃え盛り混乱を極めた。この日松下俊之助は城を枕で戦死する。	

三	二	一	八
◆一、彦根発、北陸道を経由。	◆一、藩主京都発大津より彦根に着く。	◆一、備后二付、御暇乞の為参朝。岩倉議定より御感状を下賜される。	一、戦争中印鑑これなきものは往来堅く無用の事 辰六月・会議所」と言う高札が、氣比宮。阿弥陀瀬・中田・中村・与板黒川端・新屋敷の各所に立て「鉄砲形の御印」が庄屋一同に渡された。
◆一、東軍・長岡軍は遂に長岡城を奪還を敢行する。	◆一、彦根発、北陸道を経由。	◆一、藩主京都発大津より彦根に着く。	◆一、備后二付、御暇乞の為参朝。岩倉議定より御感状を下賜される。
◆一、彦根発、北陸道を経由。	◆一、藩主京都発大津より彦根に着く。	◆一、備后二付、御暇乞の為参朝。岩倉議定より御感状を下賜される。	一、朝本与板村・円満寺焼失、是は会津藩の忍びの者三人入り放火との事。 五月八日より本与板村日々二、三軒ツツ会津藩より放火、今日この頃は本村は焼け残り三、四軒しか見え申さず候。
☆一、礼蔵与板御坊に滞在各地の情報を北陸総督へ報告している。 「翌二年迄滞在して八月二十七日帰郷する」	一、「戦争中印鑑これなきものは往来堅く無用の事 辰六月・会議所」と言う高札が、氣比宮。阿弥陀瀬・中田・中村・与板黒川端・新屋敷の各所に立て「鉄砲形の御印」が庄屋一同に渡された。	◆一、藩主天皇御召に依参朝、天顔を拝す色々の品を拝領する。	一、草鞋・沢庵漬・明俵・篝火用焚木の徴発が始まり、六月二日から三十八人の人足出る。
一、官軍の諸藩が集合し、東は川袋より北は本与板・原・西は与板裏山より阿弥陀瀬・笠脱山・乙茂・柿ノ木に至る五里の防備を完成する。 六十日も戦争が続く。	面も苦戦に陥りついに兜巾堂山に退く。 七ツ時城中に火を放ち、町家も燃え盛り混乱を極めた。この日松下俊之助は城を枕で戦死する。	一、官軍再び長岡城を奪回する。 一、この戦争中、官軍参謀会議所は、三輪権平宅大小荷駄方山田四郎左衛門宅。 援軍の官軍は、長州・薩摩・尾州。越前・加州。大垣・富山・高遠・須坂、松代。飯山。高田。高崎の各藩であった。 特に飯山藩は六十余日滞陣、城、街が炎焼の節はその消防に勤めた。 一、官軍総進撃、与板勢も地藏堂迄進軍、諸藩軍と共に蒲原郡観音寺まで進み敵軍を一掃した。	三 一、官軍勢が通過、又は休憩の場合の賄いは、七月二十五日より左の通り定める。 「覚」一、泊り賄い一人につき(白米四合・錢四百文、但、菜は梅干し香の物たべるべきこと 一、昼賄い一人につき(白米二合・錢百文 但 同上 ◎一、西軍、松ヶ崎・大夫浜に上陸

※「戦争に於ける森林の被害」

長岡・与板・出雲崎三道の戦線・東栃尾谷より西海辺にいたる対戦八十余日に及ぶ。夜々の篝火を燃やし、互いの襲来の新材・欄檻伐等、与板山の如きは、殆ど伐採し尽くした如くであった。東軍の陣地を巡視するに皆同じ状態であった。僅かに残る樹木は枝は折れ幹は裂け、砲戦の激烈を物語っている。

平成九年九月一日

以上
小林繁雄記